

# 卒業総括

方场

2019年11月東京にて

まさに「光陰は矢の如し」、来日して既に半年が経ちました。振り返れば、この半年間の一番大きな収穫は東京藝術大学の入学試験に合格したことです。これから述べる経験を後輩の皆さんと共有する機会を大切にしたいと思います。

2018年8月に留学を決意してからこれまでの半年間、申請資料の準備から始め、多くのことにおいて亜細亜友之会外語学院の先生方から丁寧なサポートを頂きました。そして、進学のことについて、進学担当の先生方からも多くのアドバイスとご指導を頂きました。成績の面のみではなく、生活を含めた様々な面で学校の先生方や職員の方から丁寧な対応を受けました。そのおかげで私が理想の大学院に合格できたと思います。

入学式で野左近校長先生と石川副学院長から頂いた言葉は今でもはっきりと覚えています。それは、日本に来た目的というものを忘れず、家族と先生の期待に応えられるように頑張ることです。お二方のお言葉は私にとってとても重みを感じます。なぜなら、今回留学へ来られること自体のありがたさを私が知っていて、これまで自分が選んだ道と努力してきたことが自分の将来にどれほど良い影響を与えるかが少し見えているからです。

チャンスは自分から積極的につかんでいくものだと個人的に思います。

進学への挑戦も同じです。自分から積極的に準備にかかり、継続的に努力することが成功のカギとなります。日本語の勉強に関しては、日本へ来る前から日本語能力試験のN2に合格しておけば、あとの勉強に有利だと私は思います。また、出願と専門知識の攻略に関しては、学校の先生方から「事前相談」や「研究計画書」等についての説明があります。それをしっかりおさえた上で、志望大学のリサーチに取り掛かることをお勧めします。それに加え、受験勉強のスケジュールを作成し、それに従ってコツコツと実行していけば、良い結果が得られるはずです。

東京藝術大学に合格した要因は様々ですが、自分の場合を簡単にまとめれば以下のいくつかがあります。中国首都師範大学の大学院を修了し、芸術関連の仕事に従事した経験、日本語と英語等の語学力、それから美術専門の塾及び日本語学校の先生方からのご指導の下で完成した質の良い研究計画書があったからです。受験の主な難点は専攻を変えることです。要するに、文学から芸術に専攻を変更するにあたって、並々ならぬ努力が必要です。こちらの難関を克服するにあたって、尚藝舎美術塾で同大学出身の先輩のアドバイスと先輩に勧められた専門書が大いに役立ちました。総合大学の受験と違い、芸術系大学の試験の一番大きな特徴は、指導教授の好み試験合格を左右する点です。そのため、志望する指導教授の好みを理解し、経験ある先輩のアドバイスを受け入れることが合格につながります。

また、反省の必要性について皆さんと共有したいです。自身を反省するのが重要だということを私は強調したいです。自分自身ときちんと向き合うべきだと私は思います。日本語学校の学生として、現在自分の立ち位置、将来と現在の関連性を理解、認識することが大事です。理想の大学/大学院に進学することが優先すべき重要なことです。そして、将来の合格は現在の努力によるものです。また、試験合格は最終目的ではなく、自分自身の総合的能力の底上げと日本文化・社会の適応に力を入れるべきだと私は思います。そのため、自分自身を常に反省することを今からやってほしいです。

後輩の皆さんにも志望大学/大学院に合格できるように祈っています。